

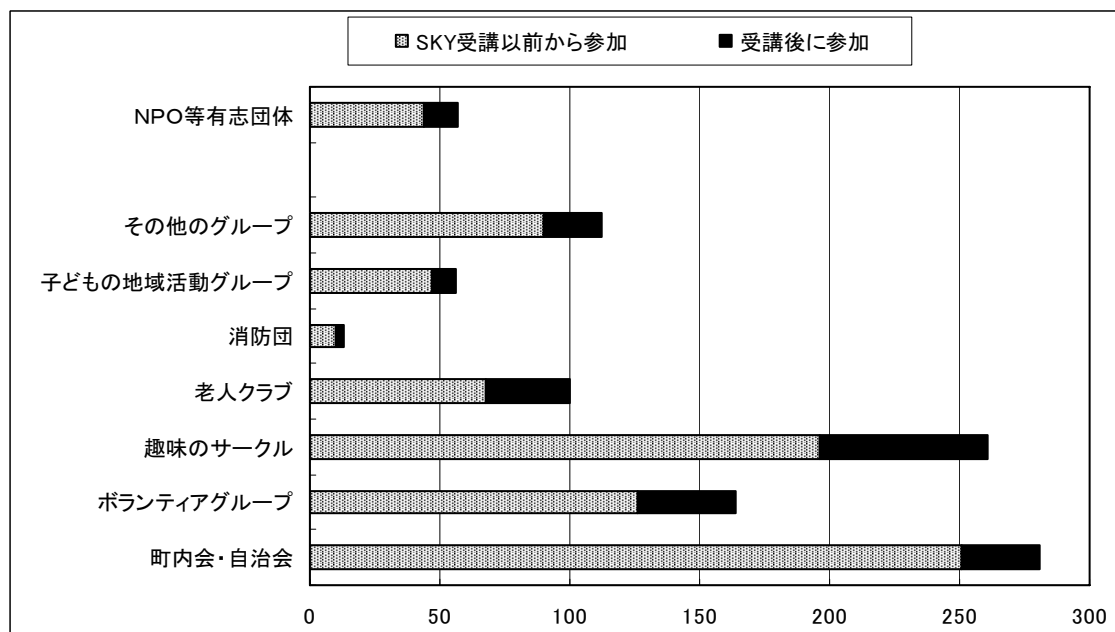
## 第4章 新・京都SKY大学修了生の社会活動への参加状況

第4章では、SKY大学修了生の社会活動への参加と活動状況の特徴を整理した後で、修了生のどのような特徴が社会活動への参加につながりやすいのか、また、SKY大学の講座のどのような要因が社会活動への参加を促すのかを整理する。

### 第1節 地域(地縁)組織への参加状況(問22)

まず、社会活動への参加状況を図 4-1 に示す。SKY大学の受講前後を合わせてもっとも参加率が高いのは「町内会・自治会」(73.1%)であり、「趣味のサークル」(69.7%)・「ボランティアグループ」(47.8%)がそれに続く。また、「趣味のサークル」は受講後に参加した割合が高く(17.4%)なっており、受講でできた興味・関心や人間関係がその後の活動につながりやすい領域と考えられる。

図 4-1 地域組織への参加状況



つぎに活動別にそれぞれの特徴を整理する。

#### 町内会・自治会

町内会・自治会はもっとも参加率の高い活動であるが、受講前からの参加率が65.3%と高く、受講後の参加率の増加は大きくない(7.8%)。受講とは関連の薄い活動と考えられる。

性別による違いでは、女性は「行事に参加する程度」の関わりの人の割合が高いのに対して、

男性は「代表・役員などを務める」割合が高い。年齢では65歳から70歳代の参加率が高く、この年代が中心的な活動を担っているようである。

また、市外(北部)での参加率が高く(受講前 83.0%)、地縁的なつながりの強さを感じさせる。これは新興住宅地の多い市外(南部)(受講前 59.2%)と対照的である。(表 4-1)

表 4-1 町内会・自治会への参加と活動状況

	町内会・自治会への参加				町内会・自治会での活動状況				合計
	受講以前から参加	受講後に参加	不参加	合計	行事参加程度	日常的に活動	代表・役員等を務める	その他	
性別									
男	149	25	72	246	82	40	81	11	190
%	61	10	29	100	43	21	43	6	-
女	101	5	31	137	70	27	32	3	112
%	74	4	23	100	63	24	29	3	-
年齢区分									
～64	20	1	16	37	16	4	8	0	22
%	54	3	43	100	73	18	36	0	-
65～69	66	5	30	101	32	18	27	7	76
%	65	5	30	100	42	24	36	9	-
70～74	85	14	28	127	55	23	37	4	106
%	67	11	22	100	52	22	35	4	-
75～79	60	9	18	87	39	18	31	3	76
%	69	10	21	100	51	24	41	4	-
80～	19	1	11	31	10	4	10	0	22
%	61	3	35	100	45	18	45	0	-
居住地									
京都市内	166	18	75	259	104	35	75	12	203
%	64	7	29	100	51	17	37	6	-
市外(南部)	45	9	22	76	27	15	21	2	56
%	59	12	29	100	48	27	38	4	-
市外(北部)	39	3	5	47	21	16	16	0	43
%	83	6	11	100	49	37	37	0	-
京都府外	0	0	1	1	0	0	0	0	0
%	0	0	100	100	0	0	0	0	-
合計	250	30	103	383	153	67	113	14	303
%	65	8	27	100	50	22	37	5	-

### ボランティアグループ

ボランティアグループは全体では5割弱程度の参加率であるが、受講前は女性の方の参加率が高かった(男性 31.3%、女性 44.8%)活動である。男性は受講後の参加率が 13.4%の増加を示し(女性は 6.4%の増加)、受講による意識の高まりや人間関係の形成による影響が考えられる。活動状況では年齢が高くなるほど「代表・役員等を務める」割合が高くなるという一般的傾向が確認できる。(表 4-2)

### 趣味のサークル

趣味のサークルは町内会・自治会につぐ参加率の高い活動であり、受講前後を合わせると7割の参加率である。とくに男性で講座受講後の参加率の増加が大きい(21.9%増加)。年齢に関しては 70 歳代が、地域的には市外(南部)が受講後に参加率が大きく高まっている。これら

の結果は、SKY大学の受講が活動への参加のきっかけになることを示す好例といえる。(表4-3)

表 4-2 ボランティアグループへの参加と活動状況

	ボランティアグループへの参加				ボランティアグループでの活動状況				
	SKY受講以前から参加	受講後に参加	不参加	合計	行事参加程度	日常的に活動	代表・役員等を務める	その他	合計
性別									
男	70	30	124	224	34	44	33	11	112
%	31	13	55	100	30	39	29	10	-
女	56	8	61	125	36	29	21	7	80
%	45	6	49	100	45	36	26	9	-
年齢区分									
～64	13	3	19	35	7	9	4	0	16
%	37	9	54	100	44	56	25	0	-
65～69	32	11	53	96	14	24	8	9	52
%	33	11	55	100	27	46	15	17	-
70～74	37	15	64	116	23	23	19	6	62
%	32	13	55	100	37	37	31	10	-
75～79	32	6	35	73	19	14	16	3	47
%	44	8	48	100	40	30	34	6	-
80～	12	3	15	30	6	3	7	0	14
%	40	10	50	100	43	21	50	0	-
居住地									
京都市内	76	28	129	233	43	48	32	14	126
%	33	12	55	100	34	38	25	11	-
市外(南部)	26	4	41	71	10	12	10	4	32
%	37	6	58	100	31	38	31	13	-
市外(北部)	22	6	16	44	16	11	10	0	31
%	50	14	36	100	52	35	32	0	-
京都府外	1	0	0	1	0	1	1	0	1
%	100	0	0	100	0	100	100	0	-
合計	126	38	186	349	70	73	54	18	192
%	36	11	53	100	36	38	28	9	-

表 4-3 趣味のサークルへの参加と活動状況

	趣味のサークルへの参加				趣味のサークルでの活動状況				
	SKY受講以前から参加	受講後に参加	不参加	合計	行事参加程度	日常的に活動	代表・役員等を務める	その他	合計
性別									
男	109	53	80	242	61	74	44	6	166
%	45	22	33	100	37	45	27	4	-
女	86	12	33	131	34	50	19	1	95
%	66	9	25	100	36	53	20	1	-
年齢区分									
～64	20	3	11	34	4	14	6	0	22
%	59	9	32	100	18	64	27	0	-
65～69	52	14	32	98	17	41	12	0	65
%	53	14	33	100	26	63	18	0	-
70～74	65	25	36	126	35	36	24	4	88
%	52	20	29	100	40	41	27	5	-
75～79	41	18	24	83	23	27	16	3	62
%	49	22	29	100	37	44	26	5	-
80～	17	5	9	31	16	5	5	0	23
%	55	16	29	100	70	22	22	0	-
居住地									
京都市内	122	43	85	250	53	79	39	7	163
%	49	17	34	100	33	48	24	4	-
市外(南部)	44	19	17	80	24	31	15	0	62
%	55	24	21	100	39	50	24	0	-
市外(北部)	29	3	10	42	18	13	8	0	35
%	69	7	24	100	51	37	23	0	-
京都府外	0	0	0	0	0	0	0	0	0
%	0	0	0	0	0	0	0	0	-
合計	195	65	113	373	96	124	63	7	262
%	52	17	30	100	37	47	24	3	-

## 老人クラブ

老人クラブは受講前後を合わせても参加率が低い(27.1%)活動である。活動状況も「行事参加程度」が多く、とくに女性で顕著である。「代表・役員等を務める」割合が男性、高齢層が高くなっている。

年齢が高い層の参加率が高いこと、地域的には市外(北部)の参加率の高さ(58.7%)が際だっている。町内会・自治会と同様、地縁的なつながりの強さが反映される活動といえる。(表 4-4)

表 4-4 老人クラブへの参加と活動状況

	老人クラブへの参加				老人クラブでの活動状況				
	SKY受講 以前から 参加	受講後に 参加	不参加	合計	行事参加 程度	日常的に 活動	代表・役員 等を務める	その他	合計
性別									
男	49	22	171	242	31	20	20	9	75
%	20	9	71	100	41	27	27	12	-
女	19	10	98	127	23	7	2	0	31
%	15	8	77	100	74	23	6	0	-
年齢区分									
～64	2	1	29	32	2	1	1	0	3
%	6	3	91	100	67	33	33	0	-
65～69	12	6	77	95	9	9	2	1	20
%	13	6	81	100	45	45	10	5	-
70～74	13	13	99	125	12	8	5	5	30
%	10	10	79	100	40	27	17	17	-
75～79	25	12	47	84	25	7	7	3	40
%	30	14	56	100	63	18	18	8	-
80～	16	0	16	32	6	2	7	0	13
%	50	0	50	100	46	15	54	0	-
居住地									
京都市内	32	25	189	246	31	14	9	9	61
%	13	10	77	100	51	23	15	15	-
市外(南部)	10	5	61	76	10	5	3	0	17
%	13	7	80	100	59	29	18	0	-
市外(北部)	25	2	19	46	13	7	9	0	27
%	54	4	41	100	48	26	33	0	-
京都府外	0	0	0	0	0	0	0	0	0
%	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	68	32	269	369	54	27	22	9	106
%	18	9	73	100	51	25	21	8	-

## 消防団

消防団への参加はほとんどなく、受講前後を合わせて 13 人が参加と回答したのみである。少数ながら日常的に活動している人もいるが、特定のみがたずさわる活動といえるだろう。

(表 4-5)

表 4-5 消防団への参加と活動状況

	消防団への参加				消防団での活動状況					
	SKY受講 以前から 参加	受講後に 参加	不参加	合計	行事参加 程度	日常的に 活動	代表・役員 等を務める	その他	合計	
性別	男	6	1	219	226	12	4	2	7	25
	%	3	0	97	100	48	16	8	28	-
	女	4	2	105	111	7	0	1	1	9
%	4	2	95	100	78	0	11	11	-	
年齢区分	～64	0	0	30	30	0	0	0	0	0
	%	0	0	100	100	0	0	0	0	-
	65～69	1	1	89	91	1	2	0	2	5
	%	1	1	98	100	20	40	0	40	-
	70～74	4	1	115	120	7	1	2	4	14
	%	3	1	96	100	50	7	14	29	-
	75～79	4	1	66	71	6	1	1	2	10
	%	6	1	93	100	60	10	10	20	-
80～	1	0	23	24	5	0	0	0	5	
%	4	0	96	100	100	0	0	0	-	
居住地	京都市内	9	2	217	228	13	4	2	7	26
	%	4	1	95	100	50	15	8	27	-
	市外(南部)	0	0	72	72	1	0	1	0	2
	%	0	0	100	100	50	0	50	0	-
	市外(北部)	1	1	34	36	5	0	0	1	6
%	3	3	94	100	83	0	0	17	-	
京都府外	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
%	0	0	0	0	0	0	0	0	-	
合計	10	3	324	337	19	4	3	8	34	
%	3	1	96	100	56	12	9	24	-	

表 4-6 子どもの地域活動に関するグループへの参加と活動状況

	子どもの地域活動グループへの参加				子どもの地域活動での活動状況					
	SKY受講 以前から 参加	受講後に 参加	不参加	合計	行事参加 程度	日常的に 活動	代表・役員 等を務める	その他	合計	
性別	男	27	7	189	223	21	12	5	7	44
	%	12	3	85	100	48	27	11	16	-
	女	20	2	95	117	12	5	5	1	20
%	17	2	81	100	60	25	25	5	-	
年齢区分	～64	4	1	27	32	4	1	0	0	5
	%	13	3	84	100	80	20	0	0	-
	65～69	10	2	80	92	4	6	1	1	12
	%	11	2	87	100	33	50	8	8	-
	70～74	19	3	96	118	13	7	4	3	25
	%	16	3	81	100	52	28	16	12	-
	75～79	8	3	61	72	8	2	2	4	15
	%	11	4	85	100	53	13	13	27	-
80～	6	0	20	26	4	1	3	0	7	
%	23	0	77	100	57	14	43	0	-	
居住地	京都市内	36	8	189	233	21	14	8	6	48
	%	15	3	81	100	44	29	17	13	-
	市外(南部)	3	0	69	72	4	1	0	0	5
	%	4	0	96	100	80	20	0	0	-
	市外(北部)	7	1	27	35	6	2	2	2	9
%	20	3	77	100	67	22	22	22	-	
京都府外	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
%	0	0	0	0	0	0	0	0	-	
合計	47	9	285	341	33	17	10	8	64	
%	14	3	84	100	52	27	16	13	-	

## 子どもの地域活動に関するグループ

子どもの地域活動に関するグループへの参加は消防団について少なく参加率は 16.4%である。講座受講後に参加率が高くなることもなく、講座の受講とは結びつきにくい活動といえる。子どもに関わる活動らしく、女性が代表・役員などを務める割合が高いことは特徴的である。(表 4-6)

## その他のグループ

これまでに選択肢として取り上げてこなかった活動への参加を「その他のグループ」としてまとめたとすねた。講座受講前後を合わせると 38.8%の参加率があり、積極的にさまざまな活動に取り組んでいることがわかる。(表 4-7)

表 4-7 その他のグループへの参加と活動状況

	SKY受講 以前から 参加	受講後に 参加	不参加	合計	行事参加 程度	日常的に 活動	代表・役員 等を務める	その他	合計
男	56	16	121	193	24	34	20	7	80
性別 %	29	8	63	100	30	43	25	9	-
女	34	6	55	95	13	14	13	1	33
%	36	6	58	100	39	42	39	3	-
~64	9	0	13	22	3	6	3	0	9
%	41	0	59	100	33	67	33	0	-
65~69	20	5	48	73	6	12	6	2	23
%	27	7	66	100	26	52	26	9	-
70~74	27	12	64	103	17	15	10	3	42
%	26	12	62	100	40	36	24	7	-
75~79	22	4	40	66	7	9	12	2	27
%	33	6	61	100	26	33	44	7	-
80~	12	1	12	25	4	5	2	1	11
%	48	4	48	100	36	45	18	9	-
京都市内	51	14	125	190	20	28	13	7	66
%	27	7	66	100	30	42	20	11	-
市外(南部)	18	5	39	62	7	9	5	1	20
%	29	8	63	100	35	45	25	5	-
市外(北部)	19	3	12	34	10	9	13	0	25
%	56	9	35	100	40	36	52	0	-
京都府外	1	0	0	1	0	1	1	0	1
%	100	0	0	100	0	100	100	0	-
合計	90	22	177	289	37	48	33	8	113
%	31	8	61	100	33	42	29	7	-

## 第2節 NPOなど有志団体での活動状況(問23)

第1節同様、NPOなど有志団体への参加と活動状況を整理した。複数の団体に参加している可能性も考慮して、最大2団体までの活動状況をたずねているが、2団体に回答した人は18

人と少ないので、1人につき1団体分の活動状況に限定して結果をまとめた。(表 4-8)

参加率は講座の受講前後を合わせて 15.3%と高くはない。参加している人は多くはないが、参加者の活動状況は他の地域組織への参加と異なり、「日常的に活動」や「代表・役員等をつとめる」割合が高く、積極的な関わりを示している。男性はとくに「行事に参加する程度」の割合が低く、積極的である。地域的には、市外(北部)での参加が高い。

全体の参加率が低いので、受講後に参加した人の割合も高くはならず、講座受講の効果に関しては不明である。

表 4-8 NPO等有志団体への参加と活動状況

	NPO等有志団体への参加				活動状況1					
	SKY受講 以前から 参加	受講後に 参加	不参加	合計	行事参加 程度	日常的に 活動	代表・役員 等を務める	その他	合計	
性別	男	26	8	204	238	6	19	14	2	35
	%	11	3	86	100	17	54	40	6	-
性別	女	18	5	112	135	10	13	9	3	23
	%	13	4	83	100	43	57	39	13	-
年齢 区分	～64	5	1	30	36	3	2	0	0	5
	%	14	3	83	100	60	40	0	0	-
	65～69	11	5	79	95	3	10	6	2	19
	%	12	5	83	100	16	53	32	11	-
	70～74	16	5	105	126	7	12	11	1	21
	%	13	4	83	100	33	57	52	5	-
	75～79	9	2	75	86	2	7	5	2	11
	%	10	2	87	100	18	64	45	18	-
	80～	3	0	26	29	1	1	1	0	2
	%	10	0	90	100	50	50	50	0	-
居住地	京都市内	29	8	211	248	11	20	11	1	36
	%	12	3	85	100	31	56	31	3	-
	市外(南部)	4	5	68	77	1	6	4	2	11
	%	5	6	88	100	9	55	36	18	-
	市外(北部)	11	0	34	45	4	6	8	2	11
%	24	0	76	100	36	55	73	18	-	
	京都府外	0	0	1	1	0	0	0	0	0
%	0	0	100	100	0	0	0	0	-	
合計		44	13	316	373	16	32	23	5	58
	%	12	3	85	100	28	55	40	9	-

### 第3節 今後の社会活動について(問24, 25)

この節では、今後の社会活動への参加意欲と参加する場合に関心のある分野を整理する。問 24 への回答で、「参加予定はないが学習成果は活かしたい」の選択率が全体の1/3をしめたことから、社会活動への参加意欲と関連する要因をさぐるために、クロス集計をもとに詳しく検討する。なお、問 24 の選択肢の中で、「2. あらたに参加する予定がある」への回答数が少なかったため、「1. すでに参加している」とひとつにまとめ、「参加または参加の予定あり」としている。

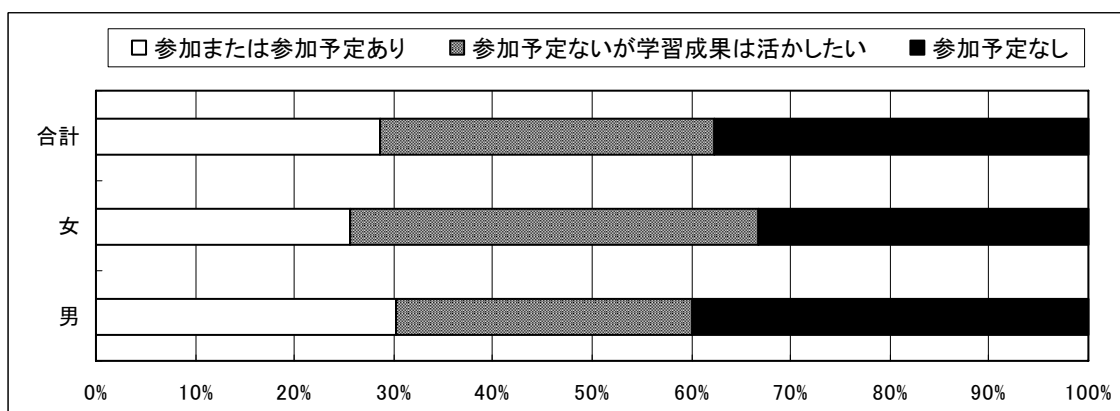
## 今後の社会活動への参加について

基本的な属性としての性別、年齢による社会活動への参加意欲を検討したあと、社会活動への意欲と関連する要因をとりあげ、分析する。(P72～P76)

### ・性別

全体では「参加予定なし」(以下、「予定なし」と略す)の割合(37.5%)がもっとも高いが、「参加または参加予定あり」(以下、「参加」と略す)と「参加予定はないが学習成果は活かしたい」(以下、「意欲あり」と略す)の合計は6割をこえており、社会活動への参加意欲は決して低くはない。男女で比べると、女性の方が「参加」は少ないが、「意欲あり」の割合が高く、働きかけの余地が大きい。(図 4-2)

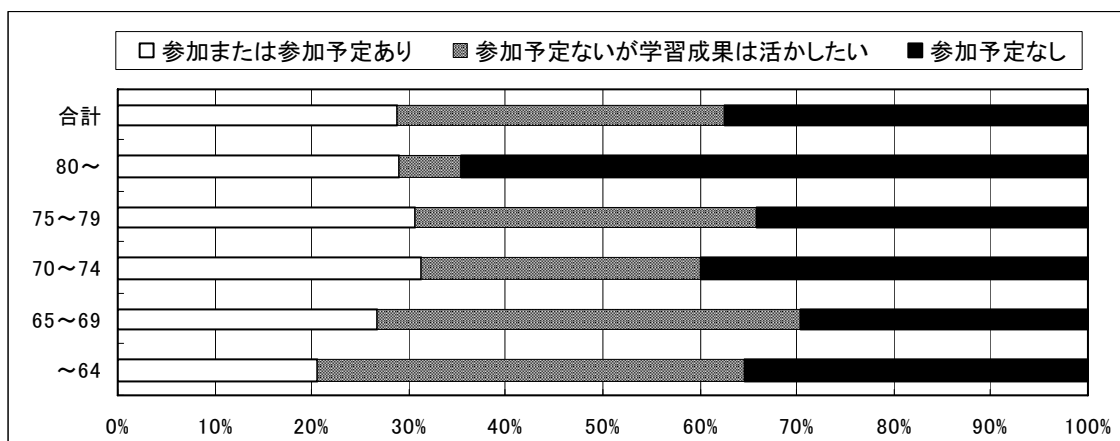
図 4-2 性別と社会活動への参加



### ・年齢

年齢が低い60歳代は「参加」が少ない傾向にあるが、「意欲あり」の割合が高く、これから「参加」へ移行する余地が十分にある。80歳以上の層は極端に「予定なし」が多いが、回答者が8名と少ない点に注意が必要である。(図 4-3)

図 4-3 年齢と社会活動への参加

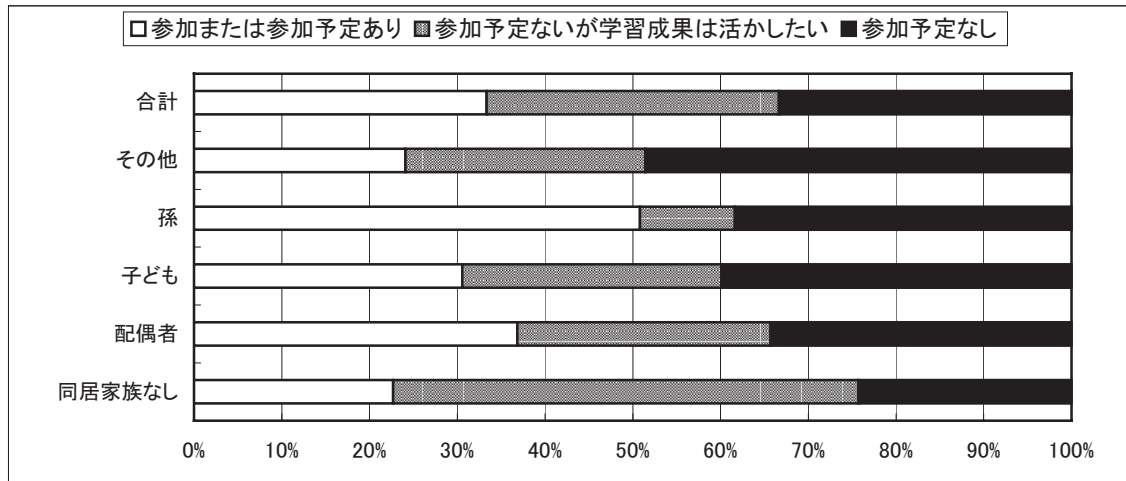




### ・同居家族

同居家族と社会活動への参加の関係には明らかな傾向がある。図 4-4 に示すように、「意欲あり」の回答が多いのは「同居家族がない」場合である。「孫」と同居しているという回答については 18 人と人数が少ないので、比率については信頼性が低い点は留意する必要がある。

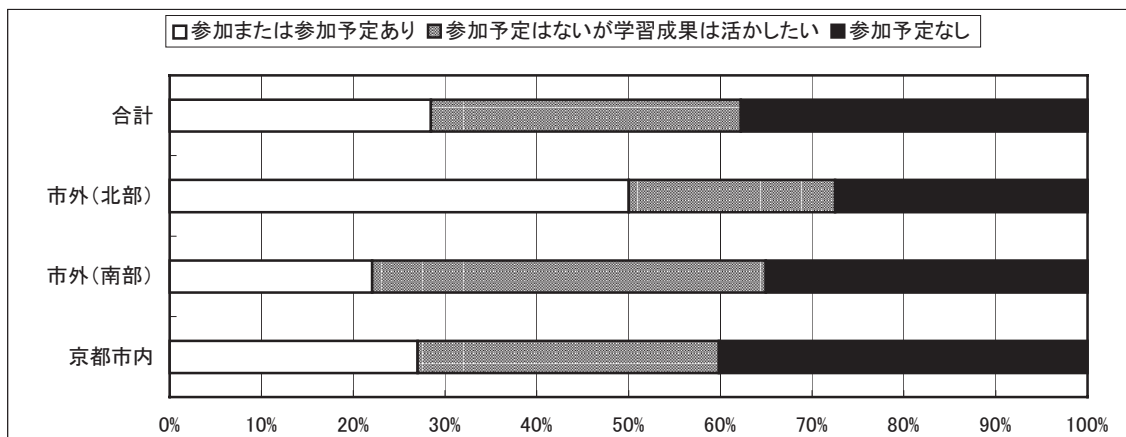
図 4-4 同居家族と社会活動への参加



### ・居住地

居住地では市外(北部)での「参加」の割合が高い点が際だっている。ただ、回答者が 40 人と少ない点は注意が必要である。「意欲あり」の回答が多いのは市外(南部)で、この地域の人々には社会活動参加への働きかけの余地が大きい。(図 4-5)

図 4-5 居住地と社会活動への参加

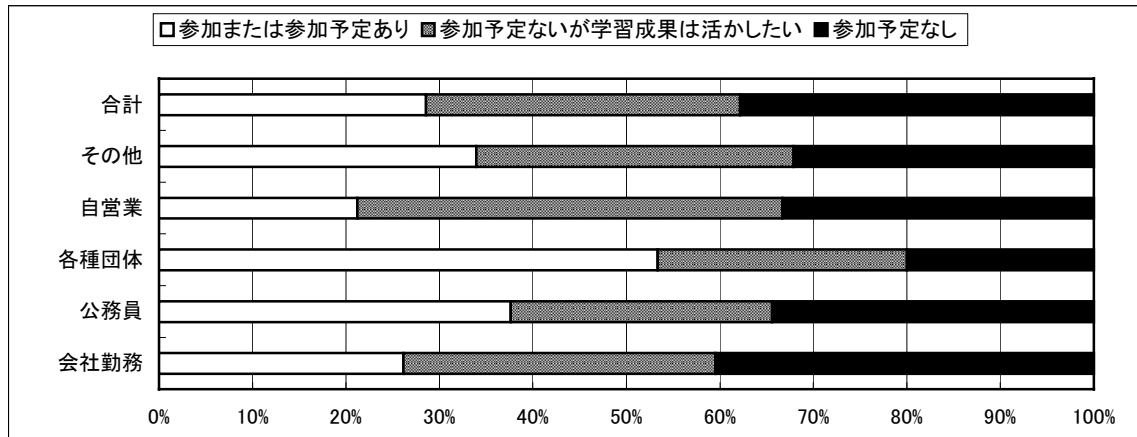


### ・職歴

職歴との関係では、もっとも人数の多い「会社勤務」をしてきた人に「予定なし」が多い。「各

種団体」に勤めた人は「参加」の割合が高いが、全体の人数が 15 人と少ないので、信頼性に欠ける。「公務員」出身者は参加率が高い。また、「自営業」者は「参加」率は低い、「意欲あり」の割合が非常に高い点が特徴的である。(図 4-6)

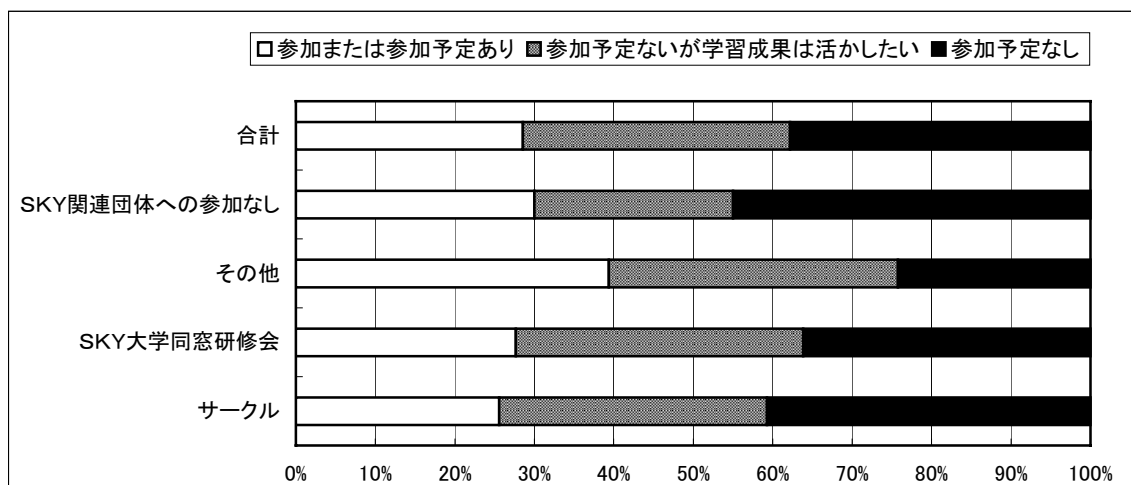
図 4-6 職歴と社会活動参加



・SKY関連団体への所属

SKY関連団体としてある程度の人数が所属している「サークル」「SKY大学同窓研修会」と「その他」「参加していない」をとりあげ、社会活動への参加意欲との関連をみる。大きな差はないが、SKY関連団体に参加していない人は「予定なし」の割合が高い。同時に「参加」の割合もある程度高く、社会活動への態度をはっきりさせている人が多いといえるだろう。「サークル」「SKY大学同窓研修会」へ参加している人は、「参加」の割合は低い、「意欲あり」の割合が高く、社会活動への参加が見込める人が多いことを示している。(図 4-7)

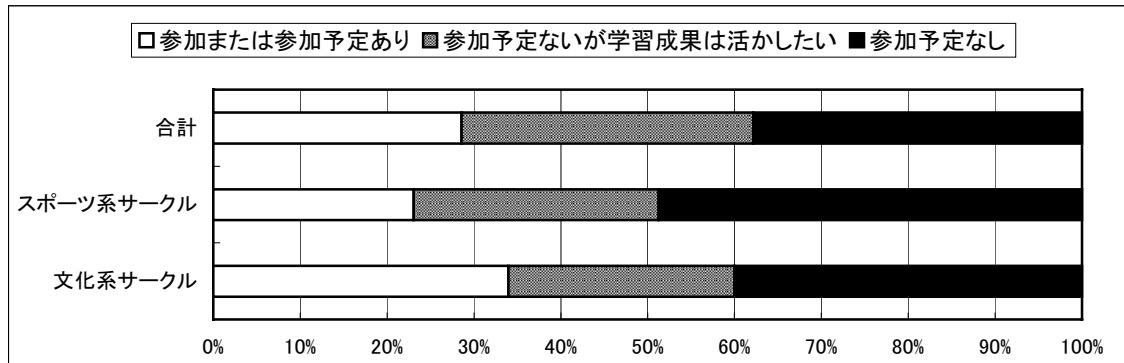
図 4-7 SKY関連団体への所属と社会活動参加



・所属サークルの種別(文化系かスポーツ系か)

SKY関連団体の中でもっとも参加率の高いサークルの、種別による社会参加の違いをみると、スポーツ系サークルへ参加している人は「予定なし」の人の割合が高いことがわかる。スポーツ系は健康面での問題もなく、活動的でもあることを考えるとこの結果は意外である。後の関心領域などとも合わせて、スポーツを志向する人の特徴の一端が現れていると考えられる。(図 4-8、10)

図 4-8 所属サークルの種別と社会活動参加

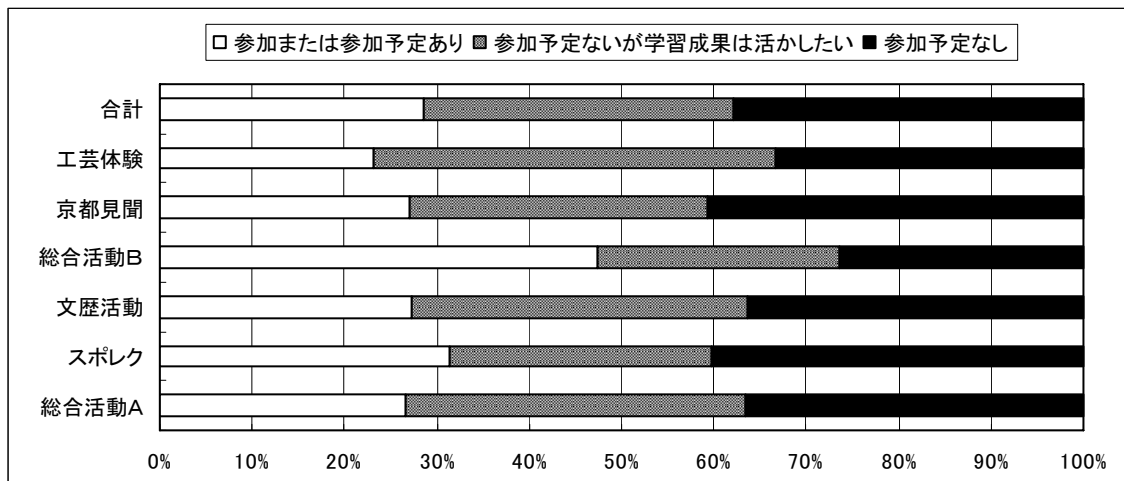


・受講コース

SKY大学の受講コースと社会活動参加の関係を整理する。ここでは受講者が少ない「資格取得準備」は省いている。

「参加」の割合が際だって高いのは「総合活動B」の受講者である。これは「総合活動B」が市外(北部)の受講生を対象としていることを反映しているものと考えられる。また「スポーツ・レクリエーション(スポレク)」受講者は「参加」と「予定なし」の割合が高く、「意欲あり」が低い。態度をはっきりさせる特徴が認められる。(図 4-9)

図 4-9 受講コースと社会活動への参加



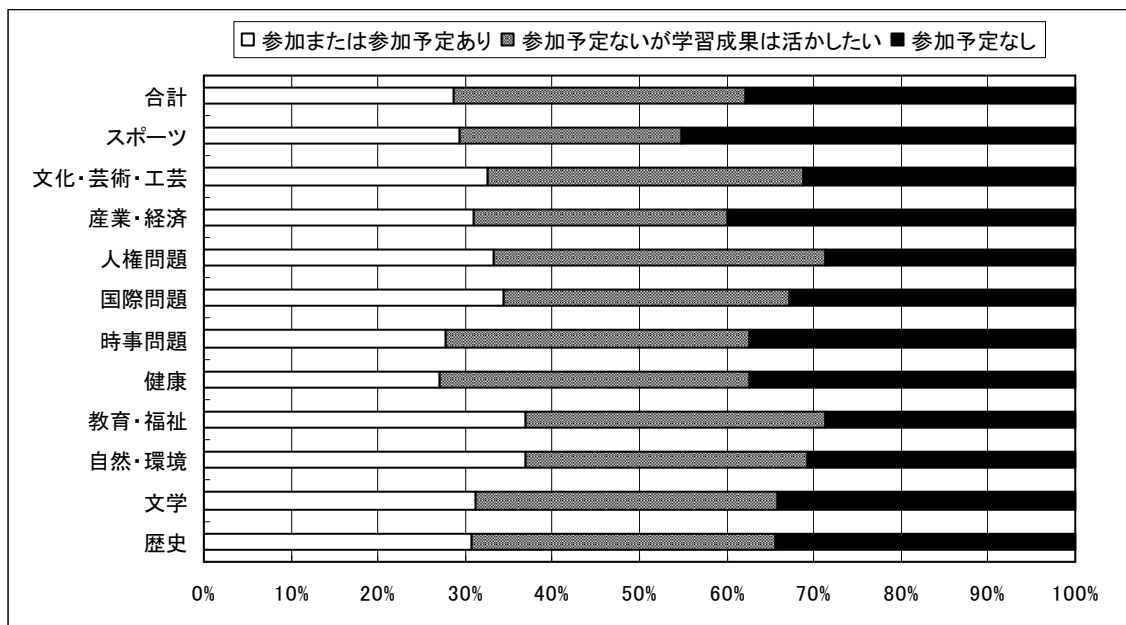
### ・関心領域(教養・趣味)

SKY大学に関するテーマの中でどのような領域への関心が社会活動への参加と関連するのかを検討する。まず、教養・趣味に関わる領域への関心について整理する。この中で関心が高い領域は、選択人数の多い方から、「歴史」(選択人数 300)、「健康」(203)、「時事問題」(201)、「文学」(196)、「自然・環境」(179)となっている。

「参加」の割合がもっとも多いのは「教育・福祉」(37.0%)、「自然・環境」(36.9%)であり、「国際問題」(34.3%)、「人権問題」(33.3%)が続く。「予定なし」がもっとも多いのは「スポーツ」(45.1%)であり、ついで「産業・経済」(39.8%)、「健康」(37.4%)、「時事問題」(37.3%)となっている。ここでもスポーツへの関心をもつ人の特徴として、社会活動への参加意欲の低さが確認できる。

(図 4-10)

図 4-10 関心領域(教養・趣味)と社会活動への参加

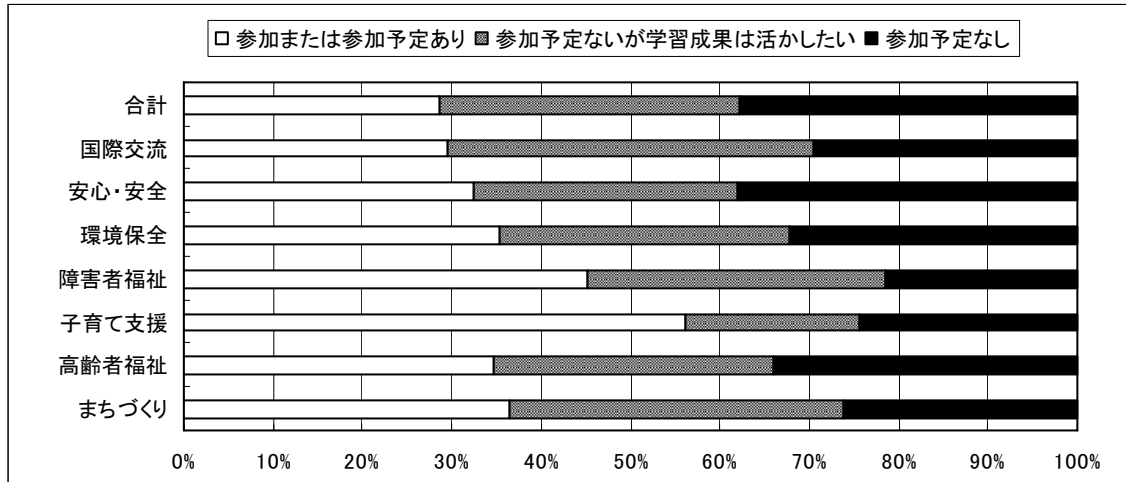


### ・関心領域(社会活動)

次に社会活動のさまざまな領域への関心と社会活動への参加意欲との関連を検討する。まず、社会活動の中で関心の高い領域は、選択人数の多いものから、「高齢者福祉」(188)、「環境保全」(158)、「安心・安全」(126)、「まちづくり」(115)となっている。

「参加」が多いのは「子育て支援」(56.1%)と「障害者福祉」(45.2%)であるが、どちらも選択人数は少なく関心が高い領域とはいえない。「予定なし」が多いのは「安心・安全」(38.1%)、「高齢者福祉」(34.0%)、「環境保全」(32.3%)という関心の高い領域になっている。関心の高い領域が社会活動と結びつきにくいことは、関心を社会活動へ結びつけることの難しさを示すものである。「まちづくり」と「国際交流」は「意欲あり」の割合が高く(37.4%, 40.7%)、社会活動参加への働きかけの余地が見込める領域である。(図 4-11)

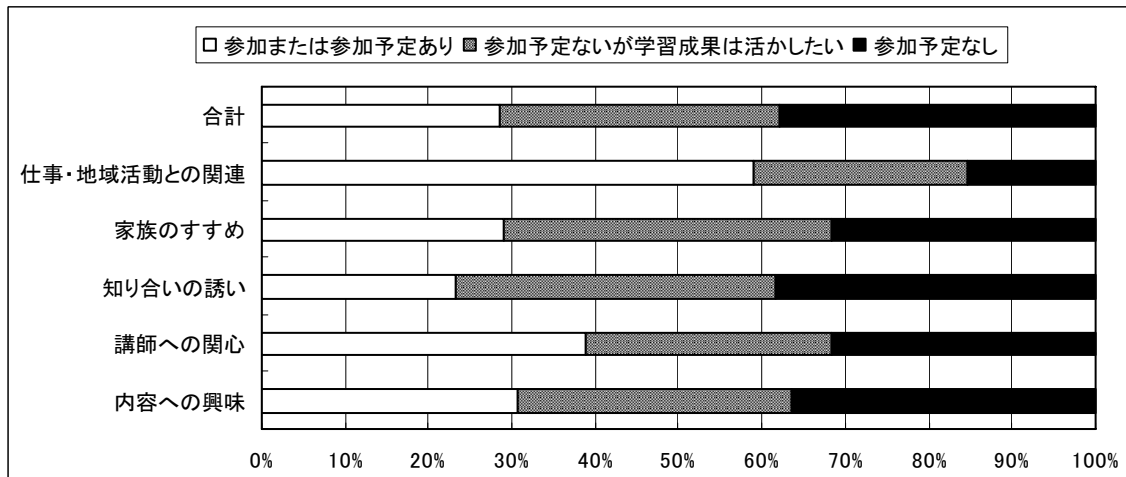
図 4-11 関心領域(社会活動)と社会活動への参加



・受講動機

受講動機と社会活動への参加との関連では、「自分の仕事、地域での活動に関連があった」ことを選んだ人の「参加」率が際だって高い(59.0%)。しかし、これを動機として回答した人は 39 人と少ない。「知り合いの誘い」と「内容への興味」を動機とした人は「予定なし」の割合が高いが、この2つは動機としてもっとも多くの人に選択されていた(順に、299 人、107 人)。関心と同様、社会活動につながりやすい動機ほど受講動機としては選択されていない傾向が認められる。(図 4-12)

図 4-12 受講動機と社会活動への参加

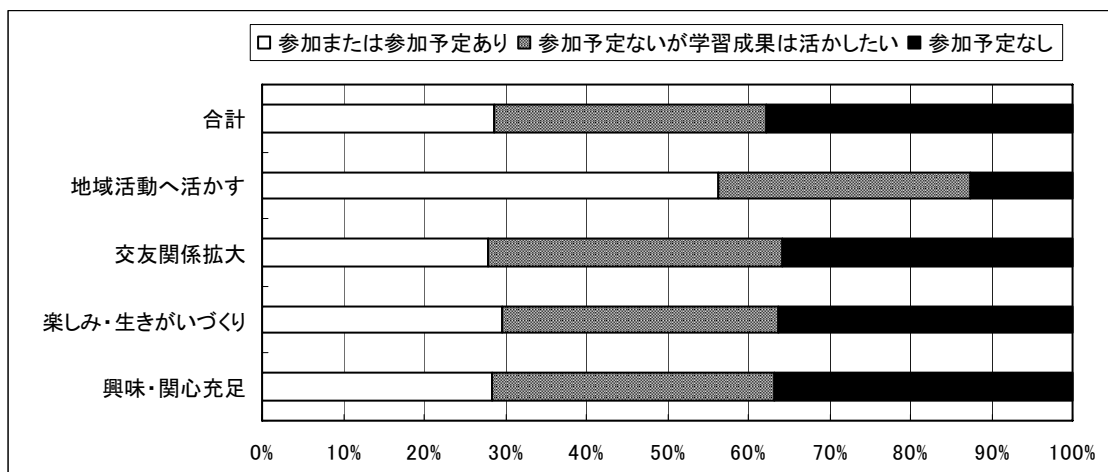


・受講目的

受講動機の場合と同様の結果が得られており、「地域やボランティア活動へ活かすため」を目的とする人の「参加」率が際だって高い(56.3%)が、受講目的として選択した人は「その他」を

除いた選択肢の中ではもっとも少ない(64人)。他の3つの受講目的は、社会活動への参加とはほぼ同様の関連を示している。(図4-13)

図4-13 受講目的と社会活動への参加



#### ・講座への満足度

各講座への満足度と社会活動参加との関連を調べるため、「参加」「意欲あり」「予定なし」別に各講座への満足度を比較する。満足度は受講した講座への満足度の平均点(満足:5、やや満足:4、どちらともいえない:3、やや不満:2、不満:1)である。

「資格取得準備」で「参加」の満足度が飛び抜けて高くなっているが、これは目標を明確に定めて受講していることの表れという面と受講者の少なさの影響の両面が関わっていると考えられる。他は総じて講座への満足度と社会活動への参加には明確な関連は認められない。(表4-9)

表4-9 講座への満足度と社会活動への参加

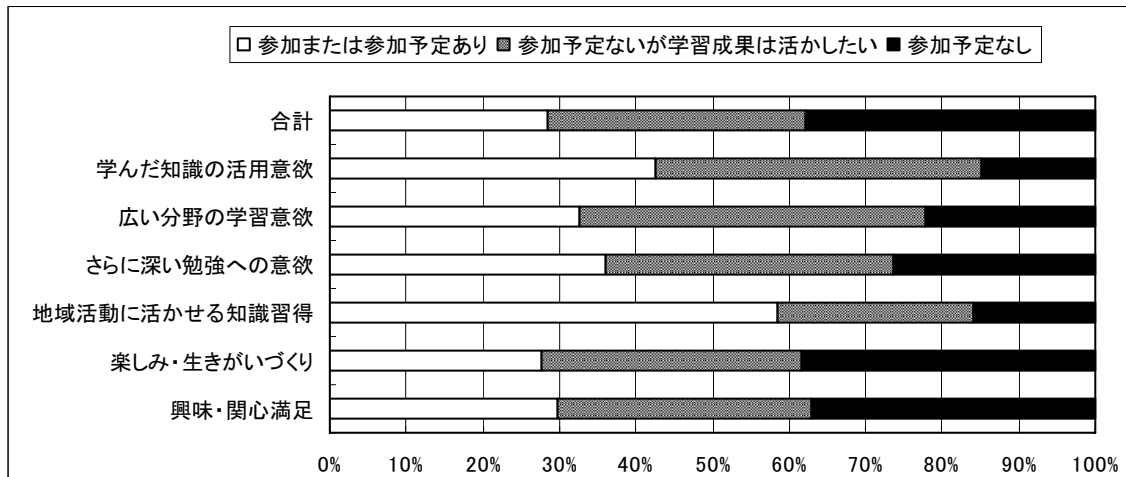
	共通教養講座	総合活動A	スポレク	文学歴史活動	資格取得準備	総合活動B	京都見聞	工芸体験
参加	3.73	3.96	3.81	4.02	4.11	4.25	4.49	4.67
意欲あり	3.78	3.96	3.97	4.17	3.25	4.09	4.57	4.38
予定なし	3.54	3.73	3.95	4.05	3.20	3.82	4.68	3.79
全体	3.68	3.88	3.92	4.08	3.67	4.06	4.59	4.19

#### ・受講成果

問19では受講目的と対応させた形で受講から得られた成果を問うている。回答された成果と社会活動への参加との関連では「地域やボランティア活動に活かせる知識が得られた」との回答を選んだ者の「参加」率が際だって高く(58.5%)、「学んだ知識を活かして何かしたくなった」

(42.6%)が続く。しかし、この2つの回答が少数派であることはこれまでの結果と同様で、それぞれの回答者数は 82 と 47 であった。回答の大多数をしめる「興味・関心を満たすことができた」(回答数 286)と「楽しみ・生きがいづくりができた」(243)の回答者は「予定なし」の割合が高く、受講内容そのものへの満足は直接、社会活動につながるわけではないことがわかる。(図 4-14)

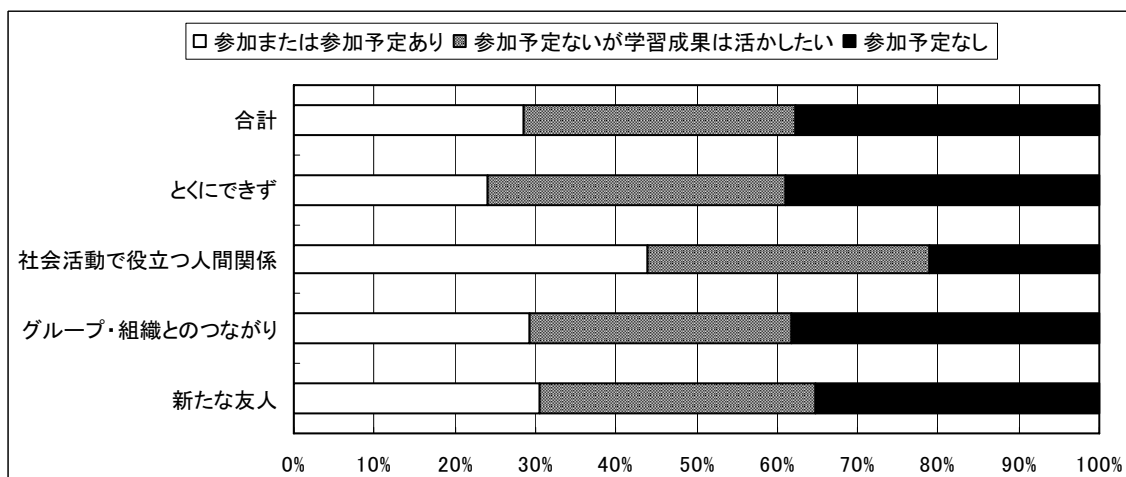
図 4-14 受講の成果と社会活動への参加



#### ・新たにできた人間関係

受講を通じて新たにできた人間関係と社会活動への参加の関連を図 4-15 に示す。「社会活動等で役立つ人間関係ができた」と回答した人は「参加」の割合が高い(43.9%)点が目につくが、これも少数派である(回答者数 57)。「とくにつながりはできなかった」人は「参加」の割合が低く(24.1%)、「予定なし」の割合が高い(38.9%)。人間関係ができることは社会活動への参加につながることを示す結果である。

図 4-15 新たにできた人間関係と社会活動への参加



## 関心のある活動分野

最後に、地域活動に参加するなら、どの分野に関心があるかを問うた問 25 の結果を整理する。回答が3割を超えたものは「高齢者福祉」(42.9%)、「まちづくり」(37.7%)、「環境保全」(32.7%)、「安心・安全」(32.2%)の4項目で、これ以下とは選択率に開きがある。この4項目の中では、「まちづくり」「環境保全」「安心・安全」に男性の回答が多く、「高齢者福祉」は男女を問わず関心が高い。女性は「高齢者福祉」でも差は小さいが男性より選択率が高い他にも、「子育て支援」「障害者福祉」といった援助的な活動への関心が高い傾向がある。男女の関心の違いが明確に現れている。

年齢による違いでは、「高齢者福祉」は当事者である年齢の高い層での関心が高くなっており、また子育て支援や障害者福祉は年齢が低い層で関心が高い分野となっている。

(表 4-10)

表 4-10 関心のある活動分野

		まち づくり	高齢者 福祉	子育て 支援	障害者 福祉	環境保全	安心・ 安全	国際交流	その他	とくに ない	合計
性別	男	122	107	15	24	96	94	15	3	30	264
	%	46	41	6	9	36	36	6	1	11	-
性別	女	37	74	32	26	42	41	16	3	9	157
	%	24	47	20	17	27	26	10	2	6	-
年齢 区分	～64	14	14	8	9	14	11	4	0	5	38
	%	37	37	21	24	37	29	11	0	13	-
	65～69	51	42	10	14	35	39	10	0	4	105
	%	49	40	10	13	33	37	10	0	4	-
	70～74	49	53	15	12	45	44	6	4	18	139
	%	35	38	11	9	32	32	4	3	13	-
	75～79	36	51	11	11	35	37	6	2	6	99
	%	36	52	11	11	35	37	6	2	6	-
	80～	8	21	3	4	9	5	5	0	6	39
	%	21	54	8	10	23	13	13	0	15	-
居住地	京都市内	104	114	30	32	90	93	18	5	31	281
	%	37	41	11	11	32	33	6	2	11	-
	市外(南部)	36	38	8	9	30	28	6	0	4	83
	%	43	46	10	11	36	34	7	0	5	-
	市外(北部)	17	27	8	8	18	15	7	1	4	54
%	31	50	15	15	33	28	13	2	7	-	
居住地	京都府外	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
合計		159	181	47	50	138	136	31	6	39	422
	%	38	43	11	12	33	32	7	1	9	-



## まとめ

以上、第2章から第4章まで、調査票の自由記述以外のデータをまとめてきた。SKY大学の受講は主として教養的な満足を求めている受講が多く、それは高い満足度をもたらしており、受講生にとっては満足いく講座が展開されている。その一方で、講座での学びを地域や社会での活動につなげるという観点からみると、元来そのような関心や動機をもつものが少数派であり、直接、社会活動への参加を高めるには不十分であることも明らかとなった。しかしながら、受講した知識をなんらかの形で活かしたいと考えている者は回答者の3割近くにとり、社会活動への参加を促す余地は十分にあるといえる。分析の中にはそのための示唆に富む結果もいくつか認められており、今後活かすべき内容を含んでいる。